

第 1 回昭島市産業振興計画策定委員会

要点記録

日時：平成 28 年 7 月 11 日（月）
午後 7 時 00 分～9 時 20 分

次 第

1. 開会
2. 委嘱状交付式
3. 市長あいさつ
4. 委員及び事務局自己紹介
5. 議題
 - ① 委員長の選出
 - ② 昭島市の現状とこれまでの取組み
 - ③ 昭島市産業振興計画の策定について
6. その他
7. 閉会

配布資料

【配布資料】

- 資料 1 昭島市の現状とこれまでの取組み
資料 2 昭島市総合戦略（抜粋）
資料 3 昭島市産業振興計画策定委員会開催予定

【机上配布】

- ・昭島市産業振興計画策定委員会要綱
- ・昭島市産業振興計画策定委員会名簿
- ・昭島市産業振興計画（平成 19 年 3 月策定）
- ・躍動するあきしま・元気プロジェクト 報告書（抜粋）

出席者（敬称略）

委員長・・・松本祐一（多摩大学総合研究所 教授・副所長）

副委員長・・・内藤博（事業承継センター株式会社代表取締役）

委員・・・幸田義康（昭和飛行機工業株式会社地域振興推進室長）、井ヶ田博（昭島市商工会商業部会長）、鈴木一昭（昭島市商工会建設業部会長）、長瀬透（昭島市商工会工業部会長）、水野宏一（昭島市商工会事務局長）、住元文和（信金中央金庫地域・中小企業研究所次長）、谷口昌平（地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター上席研究員・複合素材開発セクター長）、大坪美枝子（公益社団法人東京都中小企業振興公社多摩支社情報交流係長）、鈴木勇作（昭島市農業生産団体連絡協議会会長）、今安典子（東京都農業振興事務所農務課長代理）、國井俊彦（一般社団法人昭島観光まちづくり協会事務局長）、小山美智代（公募市民）、高橋早苗（公募市民）、桑名美恵（公募市民）

事務局・・・永澤（市民部長）、青木（市民部産業活性課長）、東山（市民部産業活性課産業振興係長）、増田（市民部産業活性課・都市農業担当係長）、板谷（市民部産業活性課）、北原（市民部産業活性課）

嵯峨（多摩信用金庫価値創造事業部）、澤田（多摩信用金庫価値創造事業部）

1. 開会

事務局・・・これより第一回昭島市産業振興計画策定委員会を開催する。進行については、委員長が選任されるまでは事務局が務めさせていただく

○北川市長より委員に対し委嘱状交付（省略）

*委員の任期は平成 28 年 7 月 11 日から産業振興計画策定まで。

2. 市長あいさつ

北川市長・・・ 日頃より、本市の市政運営に、格段のご理解ご協力を賜り、感謝する。また昭島市産業振興計画策定委員会委員を引き受けていただき、お忙しい中に第一回の委員会に出席いただいたこと、厚く御礼申し上げます。

平成 19 年 3 月に策定された前回の昭島市産業振興計画からすでに 10 年が過ぎようとしている。この間、リーマンショックによる世界経済危機、ギリシャ債務問題による欧州債務危機と 2 度に及ぶ深刻な危機がある。また、先進国経済が大きく落ち込む一方、新興国の高い経済成長が世界経済をけん引してきた状況もある。我が国においても東日本大震災からの復興を目指しつつ、アベノミクスによる「三本の矢」、さらに「新三本の矢」の成長戦略による一体的な推進によって、デフレ脱却と経済再生に向けた諸施策が展開されている。

しかし、昭島を含む地域の中小企業にまではその恩恵は届いておらず、

英国のEU離脱など海外の経済状況が不安定さを増す中においては、市の行財政を取り巻く環境は、今しばらく厳しい状況が続くものと予想される。60年を超える昭島市の歴史において、商業・工業・農業・観光といった産業は、市民の生活を支え、まちににぎわいと活力を創出する上で大きな役割を果たしてきた。

昭島市のまちづくりは、10ヶ年の第五次昭島市総合基本計画に基づき、3カ年の実施計画を策定し、毎年予算編成を計画しながら、まちづくりを進めている。本年は当該計画の後半期に入る大切な1年であり、産業の活性化は、元気都市あきしまのまちづくりを実現させるための、大きな柱となる。

まちづくりの基本理念は、第三次計画までは、人間尊重の精神が大きな柱であった。第四次・第五次計画には理念の一つに、環境・自然との共生を追加した。20世紀の日本、昭島市の成長はエネルギーを大量に使う工業化が中心であり、環境・自然との共生理念が重要だと考えたからである

策定する産業振興計画に関しては、現在の計画を反省することも大切であるが、計画倒れにならないよう、現実と理想の中、理想に走りすぎた計画では、経営はうまくいかない。理想に向けて一歩先、一歩先、を歩んでいくことが必要である。このような時代だからこそ、夢・希望を忘れずに、目標を立て、時代変化に合わせた、「希望・工夫・気迫」の3つのKを持たなければならない。この3つのKをもって事業活動・市民活動をしてほしい。

様々な業界で苦労があると思うが、夢・希望を実現するためのロードマップを皆様で、作成していただきたい。昭島市は、着実にまちの計画を進めていく。人も・まちも・自然も健康で未来につなぐ、元気都市あきしまを実現させるために、みなさまの協力が必要である。

限られた時間の中での策定となるが、第五次総合基本計画や昨年度策定した総合戦略との整合を図り、「住み続けたいまち」を基本としながら、更には、外から「訪れてみたい」「住んでみたい」と思えるまちづくりにつながる産業振興計画の策定に努めていただくようお願いする。

3. 委員及び事務局自己紹介

○委員自己紹介及び事務局自己紹介

○公務のため市長退席

4. 議題

○事務局より配布資料の確認

- 事務局より「昭島市産業振興計画策定委員会要綱」の説明
- 当委員会は原則公開制とする（＊ただし個人情報保護の必要性や委員会での公正な適正な意思形成に著しい支障があると認められる場合はこの限りではない。）
- 当委員会は議事録を作成し、公表する。

①委員長、副委員長の選出

○事務局腹案により委員長には松本委員、副委員長には内藤委員が選出され、一同の承認を得た。

事務局・・・委員長には席を移動していただき、着任のあいさつをお願いしたい。

委員長・・・多様な方に参加いただく産業振興計画策定委員会である。事業者や支援団体、市民代表で計画をつくっていくことから、みなさんの意見を多く頂戴し、率直な議事運営をしたい。

当該委員会は、今後昭島市のまちをどうしていくのかという方向性を決めていく場である。産業振興計画の内容としては、工業、農業、商業、観光という各分野の産業を今後どのようにしていくかを検討していく。ばらばらにそれぞれの分野の方が計画するもので良いのであれば、そもそも集まる必要がない。みなさんが集まって、各分野に共通するものをつなげていくため、他分野への意見も頂戴したい。

市内にいる皆さんからの意見、私のように昭島市外から来ている人は他の地域と比較し、よそ者の目でそれぞれの意見をいただく。そのようなことを意識してもらいたい。

②昭島市の現状とこれまでの取組みについて

○事務局より資料１「昭島市の現状とこれまでの取組みについて」、資料２「昭島市総合戦略（抜粋）」の説明

委員長・・・昭島市は、小さな飲食店、生活サービス、小さな商店が減少傾向にある一方、中核企業や大企業が多くあり、大きく稼ぎ、雇用数も多い企業もある。その現状を受け、産学官金検討委員会で、商店街の問題、事業承継や後継者の問題、創業支援に取り組んできた。農業に関しては問題に対して、努力はしているが農家数等は減少傾向である。観光に関しては、観光協会が設立されシティプロモーションに取り組んでいる。

まずは、話を聞いて、委員同士のイメージのすり合わせをしたい。産業に直接関わることの少ない市民委員の意見をまずは聞きたい。

桑名委員・・・昭島市には長く住んでおり、説明を受けたイメージにはほぼ同感。母が薬局を経営しており、市内に小さなお店が多いことは、理解できる。中神駅の北側に工場が多くあるイメージもわく。農業についてはわからない。

高橋委員・・・昭島市にある大手企業、例えばフォスター電機（株）等は、アップル社

のイヤホンを製造していると聞く。多くの人が使用しているブランドが昭島市にあることは誇りに思う。ぜひ広くみんなに知ってもらいたい。

小山委員・・・ 昭島駅前には、ショッピングモールがあるが、それ以外の駅には個人店が多いと感じる。拝島駅は特に減少傾向が顕著で、人通りが減っていることを実感している。

委員長・・・ 次に、各分野の現場で皆さんが感じている課題や現状を話してほしい。

幸田委員・・・ 昭和飛行機は企業誘致に力を入れている。キューピーグループの旬菜デリやガーデンベーカリー等の工場は、24 時間稼働しており、雇用確保が大変な状況。海外の方が昭島駅北口に多くなった感があるが、シンジケートがあり、海外からの人材を集めて就業させている。今後、昭島で工場を作りたいとの要望も聞くが、雇用確保の面が課題である。また近隣には、フォレストイン昭和館、カインズホーム、モリタウン等があり、求人募集を行っているが、最低賃金を上げていかないと集まらない状況がある。

委員長・・・ 「躍動するあきしま・元気プロジェクト（抜粋）」の 18P に、「輸送用機械器具製造業」は、事業所としては全体の 0.6% に過ぎないが従業者数は 3,801 人で全体の 7.4% を占めているとある。大企業が多数の人を雇用している現状があり、昭島市内だけではなく、市外からも集めなければ雇用不足であると思う。

ものづくり、工業の話が出たので、次に工業分野について意見を伺いたい。

長瀬委員・・・ ものづくり業界は、厳しい状況。大手上場会社の経営状況によっても、情勢が変わってくる。雇用については、少子化・高齢化が進み、募集をかけても若い人材が集まらず、今後グローバルに人材を考えなければいけない。個人的には、日本の工業業界は縮小していくと考えている。2 次、3 次の下請けでは食えない。コア技術・ブランド力で、NO 1 を目指せない会社は厳しい。

時代感にあわせて変えていく力・営業力が必要となってくる。自社においては 3 K（環境・健康・観光）＋1 K（教育）が必要と考えている。

Made in 昭島を目指していく必要がある。アドバランを上げないと目立たないので、昭島は何を PR したいか、という部分を決めるべき。＋1 K「教育」においては「まちおこし」を徹底して取り組むべきである。

鈴木一昭委員・・・ 同じ製造業の分野だが、建設業の方が状況は酷い。バブル崩壊時には、建設業界の人間は 900 万人前後いたが、現在は 600 万人で、1／3 ほどが建設業界を去ってしまった。

どの学校でも土木科が減っており、建設関係を目指す学生が少なくなっている。業界としては、若い人への魅力発信として、国交省の所管する「担い手 3 法」に基づき、建設業界で働いてもらうためにはどうすればよいかを公

官庁（発注者側）と考えている。東日本の震災以降、労務単価も上昇し、末端労働者も社会保険への加入が必須となった。福利厚生をしっかりとしないと人材育成ができないが、社会保険料に問題があり、それが難しい企業も多い。

今後東京オリンピックによる建設関連の需要が見込まれるが、現場で働く1～5次の建設関係から社会保険がしっかり整えられないような企業はオミットされるだろう。

昭島市の場合は、必要性のある公共工事をやっているが予算関係もあり、発注は減少傾向にある。建設業界は、雪・災害時にも昭島市と一緒に考えて取り組んでいく考え。地元の建設業が生き残っていないと、最終的に困るのは、地元。

商工会の建設業部会も含め、他の建設団体と大きな枠組みで連携して、何か一つコアをもち、提案型のもので、事業に取り組む。人材育成をおこなわないと今後の建設業は発展しない。

長瀬委員・・・ 自社では、工業高校や大学とパイプをつなぎ、毎年1、2名を新たに雇用している。モノ作りが好きな人材を10年かけて育てる企業風土を持った企業が少なくなった。若い人材を育てていく企業を増やしていくことが重要。

委員長・・・ ものづくり企業の経営や技術面で差別化していると思うが、今後生き残るための取り組み事例を支援団体から伺いたい。

谷口委員・・・ 海外展開をしようとしている企業を支援している。国内市場だけでは、発展性が低く、今後市場としては世界を目指している。世界に進出するには、高い日本の技術力がポイントになっている。都産技研では、タイへ進出している日本企業を支援するためにバンコク支所を開設している。また、開発型の企業を支援している。

大坪委員・・・ 当公社においても、海外展開を目指す中小企業のための支援拠点として、タイのバンコクに「タイ事務所」を開設している。また、成長産業分野、ニーズのある次世代産業へ向けた支援等を行っている。個人的にも日本の産業を縮小・空洞化させてはいけないと考える。昭島市さんに対しては、市内に優れた技術を持つ企業があることを市民が知っているのか、子供たちがものづくりに興味を持てるような機会があるのか、が気になる。工場見学等を通して市民に周知してはいかかが。また、昭島市に隣接する西立川駅は「昭和記念公園西立川口」の最寄駅としてかなりの利用者数がある。公園への来場者等に対し、昭島市に関するPRや情報発信ができれば良いと思う。

委員長・・・ 次に商業の話を伺いたい。

井ヶ田委員・・・ 昭島市産業振興計画（平成19年3月策定）16Pに、平成16年度の大型店の比率が73.5%であるが、10年が経過し、今は90%以上の店舗面積を大型店が占めている状況。大店法から大店立地法へ法律が改正されたことによ

り、簡単に大型店が建築されてしまう。現在昭島駅の北口に集中しているような大型店は、車で行って、1日楽しく過ごせる魅力がある。

小型店は植物に例えられる。移動ができないため地域に根を張った商いをしなければならない。大型店は、ターゲットがいなくなれば、つまり狩場がなくなれば移転してしまう動物に例えられる。

しかし魅力あるお店にしか人は集まらないと感じる。それは、商品であり、店主の魅力等である。これに関しては大型店も小型店も関係ない。

苦しい苦しいと言いながら、私たちも努力をしているが、後継者がいない状況。親は苦しい状況を子に継がせたくない、子どもも継ぐ気がない。手をこまねいているわけではないが、後20年経てばシャッター街となってしまう危機感がある。昭島市が「住んで良かったまち」から「住みたいまち」に変えようと、宣言してくれたので、商業部会として、人を呼べる店づくりに取り組んでいく。

平成29年度以降、魅力の発信としてまちゼミを計画している。昭島市の特徴は、5つものJRの駅が市内中央を走っていること。2年前「まちコン」を開催した際は、市中央に位置する昭島駅と中神駅に560人の集客があった。

中神駅は、今一番、衰退の一途を辿っており、駅を降りても、物販店は和菓子屋1店舗しかなく、あとはスナック飲食店で昼間は閉まっている。特に南口の開発は後回しになっている現状がある。

歴史的にも人が集まり、発信力のある日野の高幡不動がうらやましいという話を聞く。あきしまブランドを使って、昭島の魅力をもっと発信してほしい。昭島市にも魅力ある場所はあるが、情報発信が弱いことは事実。他分野の産業とも連携する必要があると感じているが、連携すべきとの結論がでた以降の行動に進んでいない。

幸田委員・・・ 自社は、「動物」に位置する商売をしているが、昭和飛行機工業（株）の事業は、まちづくりに力を入れている。モリタウン・映画館・トイザラスなどは賃貸物件だが、自分たちでハレーダビッドソン、アウトドアビレッジは誘致した。特にアウトドアビレッジは世界を代表する17のアウトドアブランドを日本初で一ヶ所に集めたので、今後も集客に力をいれていきたい。

自社で運営している部分に関しては、広告宣伝費に多額の費用がかかるため利益はほとんど出ない。しかし昭島のブランドを創っていく、昭島市の名前を売っていくことをメインに考えているので推進している。実際のところは、ハコモノは高額で作れない現状もある。

長瀬委員・・・ 市内の5つの駅には特徴がない。JRを巻き込んだ昭島ならではの駅づくりは必要と考える。例えば、拝島大師まで伸びるアーケードを作る、一ヶ所に個店を全て集めてしまうなど。店舗等がまばらだとさびしく来街者も帰

ってしまう。大胆な施策を考えていく必要がある。

井ヶ田委員・・・ 小売業は切迫している、何年も先の計画では見向きもしない。今、何ができるのかを考えていく必要がある。

現状に追い打ちをかけているのが、路上駐車 of 厳しい取締りである。配達中も一人余計に随行させないといけないなど、効率が悪い。どこか1つの場所へ集まって商売ができる場所、産業まつりや市場、みんなが商売できる場所を作るというのも一つの課題解決案となる。事例として、日の出町商工会は、日の出商工会館の前の駐車場を月に2回開放している。

委員長・・・ 農業の課題はどうか？

鈴木勇作委員・・・ 農業の方も、残された農地を守ることが基本である。農家によっては、後継者がいない。国の政策で市街化農地は宅地化する方針であったが、昨年度、都市農業振興基本法が成立し、都市農業の重要性が見直されており、少し良い兆しが見えてきた。

また、今推進している地域ブランド江戸東京野菜の拝島ねぎは、柔らかいので風や災害に弱い特徴がある。昭島は災害が少なく、現在はイベント等で消費者へ少しずつ提供したり、高級スーパーへおろしたりしている状況。

委員長・・・ 農業に関する行政の動きを知りたい。

今安委員・・・ 都市の農地は、高額な相続税の影響で、必ず減っていくというバックグラウンドがある。都市農業振興基本法が施行され、市街化区域で土地の評価が下がるなどの動きがあれば、きちんと相続が行われ農家が残っていく可能性はある。

昭島市は、農家のPR不足が見て取れる。立川の直売所「みの一れ」がオープンしたが、個人の直売所だけではなく、農家・JA・行政が連携し、情報発信していく必要があるだろう。

委員長・・・ 市のPRやブランドについて、観光の面から伺いたい。

國井委員・・・ 昭島はわかりやすい土地柄で、中央を通る青梅線を境に、南北で特色がある。北側は戦後に工業で発展、南側は、歴史的に深く奥多摩街道を中心に商業が発展してきた。

観光についての動きでは、従来「通過型観光」が主流であったが、昭島市では、農業・商業・工業といった全産業を包括的に見て学ぶ「着地型観光」という地域にどっぷりつかって観光することを目指している。

観光協会では、産業観光を起点とした、「まちあるき」を毎月1回行っている。市民が街歩きナビゲーターとして随時、毎回20,30名程度の参加がある。まち歩きの際には、昭島っていいよねという地域価値の共有を図り、必ず小売店に立ち寄り、地道ではあるが、地域が経済的恩恵を得られるように計画している。南側のまち歩きの際は、寺社仏閣を見て回ったり

拝島地区や八王子千人同士の街道を歩いている。

地域の発信については、ロケのまち昭島として取り組んでいる。積極的に、映像媒体を通じて、撮影隊を昭島に呼び、既に 100 本近くの撮影が行われた。

外国からの誘客の一因、ロケツーリズムが開催できることを目標としている。中でも廃校となった拝島第 4 小学校は、ロケ地として貴重であり、毎日撮影が行われている。問合せ・依頼は日 5 件程度ある。

また、クリケットを通じて、昭島を P R している。イギリス発祥の、野球の原型のスポーツ。世界的にはメジャーだが、日本ではマイナー。市内小学校で授業に取り入れるなどの広がりをみせている。

委員長・・・ それぞれの分野の連携について伺いたい。

水野委員・・・ 商工会では、商業部会、工業部会、建設業部会の役員会を月 1 回、情報交換として行っている。最近では、東中神駅北側の法務省の敷地で建設が始まっており、そこから期待できる受注先として昭島市内事業者を使ってもらうために、各部会長が音頭をとり、法務省に交渉へ行く予定である。また商工会には直接関係していないが、観光・農業とも連携していないといけない。

委員長・・・ 各産業の連携や魅力を発信するにあたっての事例やポイントを伺いたい。

住元委員・・・ 転勤により様々な地域をまわっており、個人的見解だが、やはり核になる人、突破力がある人が、地域をまとめていっている事例は動き出しているように感じる。

長瀬委員・・・ 昭島は緑と水が豊かであり、きれいなまちである。ほたるを徹底的にとばす取り組みをしている人がいる。例えば、水族館を作る、人を集めてできる施設や特徴あるものを、ガンと立ち上げないと結論が出ない。市民も巻き込み、みんなが協力しないと、まちづくりはできない。

委員長・・・ 今後、昭島市をどのようにしていくのかというアイディアを出していきたい。それぞれが自ら魅力を創らなければいけないこと、後継者問題など共通する課題もある。自分たちで取り組む発想が大切。

内藤委員・・・ 先週、熊本に行った。今まであった基盤がひっくり返るため、震災があると事業承継が 3 倍早まるという。熊本も地下水の町だったが、災害によりあつという間にひっくりかえってしまった。

東京はどうであろうかと思惟した。今日各委員の話をきくと、昭島市は自分の世界で頑張っていることを感じ、安心した。

全体を最適化できていないこともある。全体をうまくふわっと包括するには自治体の力が必要になってくる。

委員長・・・ みなさんの意見や現状を聞いた。それぞれが魅力を作っていく、昭島全体を盛り上げる必要があるが、連携を生み出すために縦に共通に突き刺し

ていく取組みが必須である。この委員会としては全体をつなげる「方向性・方針」を決めていきたい。「動物と植物」の話もあったが、商店と大型店で仲良くやるのも一つ。事業承継はどの産業でも課題であるので、若い人の教育も含めて考えていく必要がある。創業や担い手を育成し、昭島らしい観光・農業をつなげる委員会にしていきたい。

③昭島市産業振興計画の策定について

事務局・・・ 今回策定する昭島市産業振興計画は、昭島市が「地域から景気回復の取組みを進めること」を重要課題と捉え、昭島市の今後 10 年を見据えた実効性の高い計画を策定できるよう、委員の皆様から意見を頂戴し、平成 29 年 3 月の策定を目指すものである。しかし、今後 10 年を見据えた、実効性の高い計画となると、社会情勢の変化にも対応が難しいため、10 年後のビジョンとなるもの、さらに中期的に取り組みができる、実効性の高いアクションプランを組み合わせた内容になることが望ましい。

事務局・・・ 本日の委員会から策定までの期間がとても短いため、資料 3 のようなスケジュールで進めていきたいと考えている。策定までに 4 回委員会を開催する。次回は、平成 28 年 10 月 7 日金曜日に開催予定である。第 2 回委員会の前までに、事務局にて、事業所へのヒアリングを行い、結果を報告させていただく。第 3 回委員会は、平成 28 年 11 月 18 日金曜日に開催予定とし、計画（案）の討議。平成 29 年 1 月には、パブリック・コメントの実施。第 4 回委員会は、平成 29 年 2 月 28 日火曜日に計画書の最終案の報告・確定をお願いしたい。平成 29 年 3 月に計画書の完成となる。

委員長・・・ それぞれの課題や可能性等の情報を収集したいので、各産業の事業所へヒアリング訪問をし、第 2 回委員会にて報告する。その後、10 月に市民を交えたワークショップを開催し、広く意見を伺う機会をつくる。11 月には、おおよその計画（案）を作成する。1 月にはパブリック・コメントを実施し、2 月に計画書の最終案を報告する。このスケジュールで進めていく。

水野委員・・・ タイムなスケジュールの中、これだけの人材が集まっているが、ディスカッションする場が少ないと思う。委員のみなさんも情報提供を積極的に依頼したい。会議の前に資料配布を事務局をお願いしたい。

5. その他

事務局・・・ 次回からの委員会の時間について意見を頂戴したい。

委員長・・・ 18 時から 18 時 30 分で事務局と調整させていただく。

6. 閉会

委員長・・・ 初回から時間を超過してしまったが、今後もよろしくお願いしたい。以上で「第 1 回昭島市産業振興計画策定委員会」を終了する。